

JPTA



NEWS

2023.4

vol.342



公益社団法人

日本理学療法士協会

Japanese Physical Therapy Association

理学療法士 としての 学術活動 いろいろ



会報誌「JPTA NEWS」へのご意見・ご感想を募集しています。

右記のQRコードを読み取り、アンケートフォームからご回答ください。



ISSN 0914-2517

“理学療法士としての” 特集

学術活動 いろいろ

「理学療法士としての学術活動」と言われ、会員の皆さまは何を思い浮かべるでしょうか？
 大学や研究機関等で行われる「研究」を思い浮かべる方も多いかもかもしれません。
 しかし、患者さんや利用者の方に理学療法を提供する理学療法士は、日々研鑽を積み、
 知識・技術をブラッシュアップして、よりエビデンスのある理学療法を提供しなければなりません。

そこで必要な取り組みが「**学術活動**」です。

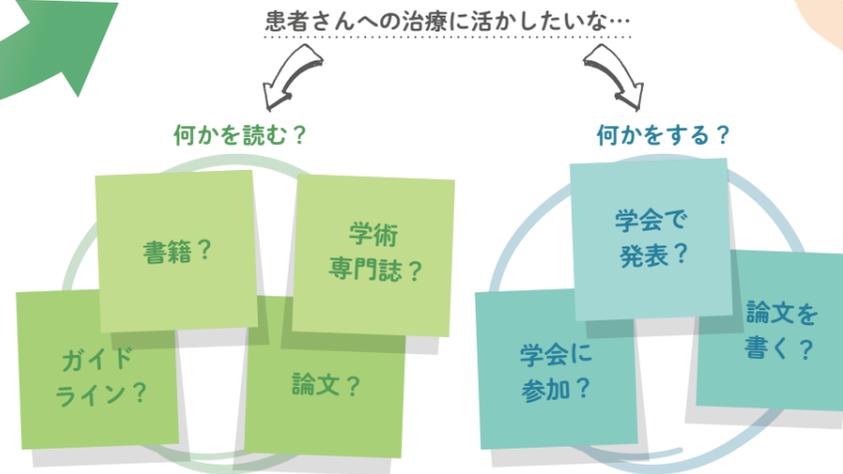
日本理学療法士協会も、定款での目的を「理学療法士の人格、倫理及び学術技能を研鑽し、
 わが国の理学療法の普及向上を図り、
 以って国民の医療・保健・福祉の増進に寄与することを目的とする。」としています。
 そこで、本号では、臨床の理学療法士が取り組んでいる学術活動の実際や
 今後の理学療法士に求められる学術活動について深掘りをします。

学術活動ってなんだろう？



まずは、**症例発表**から
 はじめてみようかな！
 どこで参加
 できるんだろう？

何からはじめたらいいの？



学会は
身近な
 ところでも

都道府県理学療法士会
 主催等*の症例発表会

*一部での開催

10ページを
 CHECK!

都道府県理学療法士会
 主催等の学会

10ページを
 CHECK!

ブロック学会 (8ブロック)

北海道、東北、関東甲信越、東海北陸、近畿、
 中国、四国、九州



日本理学療法学会連合
 (15学会・5研究会)

- 日本運動器理学療法学会
- 日本栄養・嚥下理学療法学会*
- 日本がん・リンパ浮腫理学療法学会*
- 日本基礎理学療法学会
- 日本呼吸理学療法学会
- 日本支援工理学療法学会
- 日本小児理学療法学会
- 日本神経理学療法学会

- 日本循環器理学療法学会
- 日本スポーツ理学療法学会
- 日本地域理学療法学会
- 日本糖尿病理学療法学会
- 日本予防理学療法学会
- 日本理学療法管理学会*
- 日本理学療法教育学会

- 日本ウィメンズヘルス・
 メンズヘルス理学療法研究会
- 日本産業理学療法研究会

- 日本精神・心理領域理学療法研究会
- 日本筋骨格系徒手理学療法研究会
- 日本物理療法研究会

— その他さまざまな学会 —

- World Physiotherapy
 (世界理学療法連盟)
- Asian Confederation for Physical
 Therapy (アジア理学療法連盟)
- 日本リハビリテーション医学会

など

*2023年4月、研究会から法人学会に移行



これからの 理学療法士の 学術活動

学会連合法人化から2年、
未来を見据えて



人口・疾病構造の変化、医療・医学の発展、医療・介護DXなど社会は急激に変化し、データヘルス・科学的介護の推進や感染症への対応など、理学療法士に求められる知識や技術も日々変化しています。

日本理学療法学会連合の発足から2年。理学療法の有効性を社会に発信するため日々活動している日本理学療法学会連合のこれまでの活動や展望とともに、これからの理学療法士に求められる学術活動について、お二人に語っていただきます。

日本理学療法学会連合の設立から2年経ちました。 あらためて設立の経緯や目的を教えてください。

森本：まず、本日は対談の機会をいただき、そして、藤澤理事長をはじめ日本理学療法学会連合（以下、連合）の皆さまには日々ご尽力いただき感謝いたします。私からは日本理学療法士協会（以下、協会）の立場でお話させていただきます。協会では長年、学会を運営し、学術誌の発行や学術大会の開催を行ってきました。しかし、協会は職能団体であり、急激な社会の変化も相まって、理学療法を科学、学術として確立し、さらに発展させる役割を担う団体が、社会からの要請としても必要でした。そこで、2020年の臨時総会で、「①分科学会等を法人化することによって、より自由闊達な分野ごとの研究を推進すること、②法人としての社会的責務を果たすことによって、組織

力の向上を果たすこと、③日本理学療法学会連合の法人会員および学術研究団体会員はそれぞれの環境下で計画的に日本学術会議協力学術研究団体登録を目指すこと」を目的に学会法人化が決まり、2021年4月に連合を設立しました。法人化にあたっては、協会会員の会費負担増にならないよう配慮すること、各学会および連合は理学療法科学の推進を一義的に行うことなどを基本原則にしました。
藤澤：私もこうして連合の活動をご紹介できること、そして、皆さまに連合の活動にご理解いただいていることを感謝しています。森本先生がおっしゃった学会法人化の3つの目的のうち、①と②については、専門職（profession）としての立場を確固たるも

のにすることを目指しており、学問の体系化を進めています。③については、日本学術会議協力学術研究団体として20団体が登録され、さらに連合も学術団体として認定されれば、日本学術会議において一定の役割を担えると考えています。例えば看護は、現在、日本学術会議の分野別委員会の一つである健康・生活科学委員会において看護学分科会を設置しています。理学療法からも部会の一つである第二部（生命科学）に会員や連携会員を輩出できるよう、しっかりと学術活動を進めたいです。
また、学会が法人化したことで、多くの理学療法士が対外的に「学会に所属している」と明言できるようになったことは大きな出来事だったと思います。



PROFILE
一般社団法人日本理学療法学会連合 理事長
藤澤 宏幸さん
Hiroyuki Fujisawa
北海道大学医療技術短期大学部理学療法学科を1988年に卒業した後、理学療法士として登別厚生年金病院、北海道大学医学部附属登別病院で働く。その後、1999年に東北初の理学療法士養成4年制大学として開学した東北文化学園大学に着任。これまで協合理事や学会役員として活動し、2021年日本基礎理学療法学会および日本理学療法学会連合の初代理事長に就任した。

PROFILE
公益社団法人日本理学療法士協会 常務理事(学術・研究普及事業、学会事業担当)
森本 榮さん
Sakae Morimoto

2年の連合の活動を振り返り、 課題や達成できたことを教えてください。

藤澤：2020年度の法人化準備から現在まで「新型コロナ」とともに歩んだ3年でした。社会的制約が多い中で、思いどおりの活動とはなりませんでしたが、それでもWeb学術大会で交流を維持し、ようやく2022年には対面の学術大会が再開できました。法人化後の2年間を振り返ると、まずは学術研究活動の基盤構築のため組織運営の基礎を固めました。連合、各学会・研究会いずれも組織としての運営能力は随分と高まり、効率的な組織運営となりました。
連合の自立に向けて2021年度から5ヶ年計画を立てて活動していますが、2年の活動を経て、進むべき方向がさらに明確になりました。日本学術会議協力学術研究団体としては、日本基礎理学療法学会が登録され、他の多くの学会も機関誌の発行を済ませて2023年度には登録申請を行う予定です。また、3つの研究会（がん・リンパ浮腫、栄養・嚥下、管理）が2023年度から

法人学会として活動し、その他の研究会も学会化を目指しています。日本物理療学会や日本徒手理学療法学会との連携強化も図っており、理学療法に関連する各学会が力を合わせられるよう取り組んでいます。
森本：「新型コロナ」の影響は大きいですよね。私は、30年ほど組織運営・経営マネジメントを専門にしている背景から、協会の学会担当常務理事の立場で連合の監事を拝命しており、連合が協会から独立して自立へと進む際の組織運営や経営マネジメントに関する視点の役割を担っています。各学会・研究会ともご努力されていますが、対面での会議や学会・研修会が難しいなど思うような活動が十分できておらず、本来の活動の手ごたえを感じるには複数年かかるとお聞きしています。連合については、各学会・研究会の思いや要望を聴取し、学会運営に必要な共通の規約や条件設定、事務作業の効率化など、さまざまな課題を丁

寧に解決いただいています。
協会からはじまった連合を自立させ、さらに発展させるため、現状は協会から継続して助成金を支出していますが、連合、各学会・研究会の活動に適切に運用され、着実な組織運営を歩みはじめたと感じています。藤澤先生がお話されたように、今後も5ヶ年計画を着実に実行し、1年ごとに実績を積み重ね、段階的に高みを目指していただき、そして、会員各位が誇らしく自慢できる学会に成長していただければ幸いです。
藤澤：はい。目標は、2025年度までにすべての研究会を法人学会化し、2026年度以降は各学会が自立して運営できるよう連合の役割を最適化したいと考えています。また、理学療法学の学問体系化を進めるため、2026年度に日本理学療法学会連合学術総会を開催し、日本の理学療法学研究者の英知を集めたいです。



話は変わり、お二人とも大ベテランの理学療法士です。 特に臨床の理学療法士における、学術活動の意義や目的を どのようにお考えですか。

森本：私の経験では、新人の頃から学術活動に参加したことで、「問題をまとめる→数値化する→見える化する→プレゼンをして結果を患者さんなど対象者に反映する」という一連の流れが身につきました。つまり、臨床での学術活動を通して、仕事のPDCA（Plan・計画、Do・実行、Check・評価、Action・改善）サイクルを確立できたことが大きな成果です。私はこの後も、各領域で管理者や経営層などさまざまな立場に立ちましたが、この経験が私の基盤となり支えとなりました。

また、私が理学療法士になった47年ほど前は「理学療法士さん？ 何をする仕事？」などと言われ、人数も少なく気にも留められない職種でした。なので、先輩方は理学療法士の価値を高めるため研究など学術活動に精力的に取り組み、私も後に続く理学療法士もそれに倣い、先輩から厳しい指導を受けて自分が指導できるまで繰り返す努力、

自己研鑽を重ねました。ある時、協会理事の仕事で厚生労働省のヒアリングに参加した際、行政の方に「理学療法士さんは学術活動に積極的で皆さん熱心に勉強されますね」と言われました。その時に、先輩諸氏のご努力がこの言葉の評価に繋がり、理学療法士は質が高いというイメージが作られていることを実感しました。「理学療法士のブランド価値は学術活動が支えている」ということです。

会員の皆さまには、理学療法士の良いブランドイメージを継続させるために、ブランドを背負う一員として学術活動に取り組んでいただければ幸いです。

藤澤：森本先生のご経験、よくわかります。特に、日本人にとって仕事は人生の一部であり、「仕事道」と言えるのではないのでしょうか。専門職としての矜持は、学問の裏付けのもとに利他的行動がとれることです。生きがい・働きがいは、滑らかであるよりも

抵抗のあるほうが感じ取りやすいですね。学術活動に取り組むことは、もちろん大変なことですが、その分、生きがい・働きがいも得られ、生活の充実感に繋がると思います。

また、社会に真に認められる専門職となるには、一人ひとりが所属する社会の中で尊敬される必要があります。その一翼を担えているという実感は、「生」の充実に関わります。理学療法士として学術活動に取り組み、他者の役に立つことができるのは幸運で素晴らしいことではないでしょうか。

森本：そうですね、人生100年時代ですからね。今後ますます、理学療法士として臨床や管理、経営などさまざまな立場や領域に立つことが考えられますが、長く活躍するためにも、日々の研鑽が欠かせないと強く実感しています。会員の皆さまも、まずは士会学会、ブロック学会、各学会・研究会の開催学会・研修会など興味のあるところから、自己研鑽として挑戦されてはいかがでしょうか。

今後の理学療法士に求められる学術活動についてお考えを教えてください。 また、協会や連合はどのような施策が必要でしょうか。

藤澤：これからの理学療法の学術活動に最も必要なものは、大局観です。個人では「理学療法とは何か」を自問し続けて答えるための努力が求められ、総じては「理学療法の構造のモデル化」に関する研究が必要で

す。学問の体系化では、哲学・倫理レベル、パラダイム・理論レベル、実践・臨床レベルの階層を縦断的に結び付けて考えます。哲学・倫理レベルでは、「理学療法とは何か」という問い。私はこの問いに対して

「人間学を基礎とした治療法である」と考えます。では、「人間学とは何か」という問いに対しては、「人とは何か、人はいかに生きるべきかを問う学問」と考えます。こう考えると、理学療法士は、対象者の幸福、生活

の質の向上、健康増進を目指していると言えます。パラダイム・理論レベルでは、医療倫理の四原則を入口に、手順論と物語論で治療・介入を決めます。手順論はエビデンスに基づいた思考で、物語論は対象者の人生の文脈や価値を重んじる思考です。この二つの視点で考えると、生物学的には良いと思われる治療法でも、人生の文脈や価値観として受け入れられないといったジレンマ（対立構造）が生じやすいです。実践・臨床レベルでは、このような場合、弁証法的に両方の思いを矛盾なく進める提案が必要で、医療倫理に基づいたインフォームドコンセントと治療選択に関する研究がますます重要です。また、理学療法士には、対象者を生活者としてとらえて行為レベルを射程

に入れ、運動・動作能力の改善に努めることが求められ、ICF（国際生活機能分類）に連結できる理学療法の実践モデルも必要です。しかし、このような実践モデルの研究が現状では不足しており、実践モデルを用いた症例研究も重要です。さらに、手順論に基づいた理学療法を実践するため多様なエビデンスも必要で、これは連合の各学会・研究会の研究促進に期待したいです。

結論として、学術活動の根本は、何より、理学療法士一人ひとりが実践している臨床の場であり、症例研究・報告が基本と言えます。

森本：臨床での症例研究が基本、同感です。藤澤先生が学識的な観点からお話されたので、私は個人の意見として要望をお伝えさせていただきます。まず、学会運営に携

わる皆さまに1点。勉強の意欲があっても、交通の便の悪い地域に勤務している会員は、学術活動に触れる機会が少なくながちです。Web開催は、移動距離、時間や費用の削減に直結します。一方の対面開催も、Webでは味わえない臨場感があるので、できれば両者を含んだ運営の配慮をお願いできればと思います。また、協会にも1点。学術活動している会員、例えば認定・専門理学療法士が社会から評価される活動を、職能・職域拡大などの観点から積極的に広報をお願いしたいです。

藤澤：社会は変化し続けますが、国民の健康と福祉に貢献するため、さらには社会保障制度を支える専門職の一員として、エビデンスの構築に寄与しているという誇りを持ってほしいです。

最後に、会員の皆さまにメッセージをお願いします。

藤澤：皆さまに期待することは、日頃の臨床実践における疑問をそのままにせず、すぐに解決すること。そして、対象者一人ひとりの人生に寄り添い、その結果を症例報告としてまとめること。この繰り返しが学術活動です。さらに情報共有のために発表すれば、全体として理学療法の学術的意義も高まります。これからも皆さんと一緒に「理学療法とは何か」を探求したいと願っていますし、そのためにも、学会・研究会活動に積極的に参加していただきたいです。

森本：私も藤澤先生と同じ考えです。強調するならば、日々の臨床活動を大切にしてください。そこが、学術活動としても、一人の理学療法士としても、すべてのスタートだと思えます。



わたしの 学術活動 いろいろ



— Case 01 —



医療法人軟生会
豊岡中央病院
リハビリテーション課

梅田 知里さん

学会発表

士会学会にて、人工股関節患者における破局的思考が術後の疼痛と歩行能力に与える影響について発表を行いました。日々の臨床の中で同疾患の治療経過に差が生じることに疑問を持ち、考察した仮説を検証したいという思いから研究に取り組みました。研究を学会発表しようと思ったきっかけは当院の先輩方です。積極的に学術活動に取り組んでいる方が多く、私も学会発表に興味を持ちました。初の学会発表に不安も抱きましたが、周囲のサポートにより2年目から取り組むことができました。今回の研究を通して深まった知識により、臨床では新たな視点で治療を実施することができ、予後予測など他職種へ提供できる情報も

増えました。今後の目標としては、地域医療にも興味があるため、転倒やフレイル予防に関する研究により、地域高齢者の健康増進に貢献したいと思います。臨床業務と並行して学術活動をはじめるのは不安かと思いますが、援助して下さる方に相談しながら進めるといった方法もあると思います。院内に限らず、院外の学術活動に励んでいる先生方との交流から助言をいただけることもありました。まずは自分の興味や疑問を周りの人へ話すことから始めると良いと思います。

— Case 02 —



医療法人福岡桜十字
桜十字福岡病院

東條 明德さん

学会発表

私は日々の臨床業務で脳卒中の患者さんと関わる機会が多く、その中でも腕振りの減少によって生じる左右非対称な歩容を改善したいと思い、義肢装具士と共同で新たな肘伸展型装具を試作し、その効果検証を行っています。私の周囲には学術活動を行っている先輩が多く、学会発表に挑戦しやすい雰囲気がありました。また、臨床中の疑問について上司や同僚と話す機会が定期的であり、その場で発言していくうちに、自然と学会発表に挑戦したいと思うようになりました。士会学会やブロック学会での発表を継続しつつ、院外の方々より専門的な議論をできるように連合学会での発表に

も挑戦したいと考えています。また、今は先輩方に相談する立場ですが、経験を重ねて後輩の学術活動の支援を行えるようになりたいと考えています。日々の臨床業務の中で患者さんに要点を伝えるスキルは重要ですが、学会発表の経験を通してそのスキルを学べることや、文献を調べる機会にもなるため、自己研鑽の場に最適だと考えています。学会発表は敷居が高いと思っていましたが、一度経験すると、自分の視野が広がっていることを実感できるため、今では次の学会発表が継続のモチベーションとなっています。

— Case 03 —



医療法人孟仁会
摂南総合病院
リハビリテーション科

赤口 諒さん

学会発表

学術活動は私にとって成長し続けるための一つの手段です。成長に繋がる最も重要な学術活動は発表することではなく、臨床疑問を解決しようとする姿勢と考えます。新人理学療法士の方ははじめて経験することが多く、さまざまな疑問を持つと思います。しかし、経験年数を重ねるほど、疑問を感じにくくなる可能性があるのではないのでしょうか。私は自分がそうなることを危惧しているので、日頃から抱いた疑問を解決できるように努めています。そして、その成果を論理立てて解釈し人に伝わる形で発表することは、自分では気づくことのできない新たな発見を得て、自らの成長を体験できるきっかけとなり、学術活動を継続

する報酬と動機づけになっています。それは決して易しい道のりではなく、苦い経験もたくさんしていますが、私は幸いにしてさまざまな方に指導していただく機会に恵まれ、私の疑問と一緒に向き合ってくれる同僚や他施設の仲間がいます。学術活動を一人で継続することは難しいですが、同じ疑問と熱意を持つ人は少なくないと思います。臨床疑問を解決しようとする姿勢は、こうした仲間を得るきっかけになり、豊かな理学療法士人生を歩むことができるものと確信しています。

— Case 04 —



地方独立行政法人
市立秋田総合病院
リハビリテーション科

川越 厚良さん

論文執筆

私の研究は主に呼吸リハビリテーションの分野であり、特に身体活動量をテーマに研究を続けています。近年、あらゆる領域で活動量が重要とされており、呼吸器疾患でも例外ではありません。臨床では、さまざまな重症度・病態を有する患者さんの生活状況を、活動量の視点でみています。実態を把握し、どのように改善していくか、適量の活動量を予測できないかといった疑問や課題から検証を開始し、患者さんへの介入の面で少しでも参考になればと思い、学会発表や論文執筆に至りました。論文を投稿することで、多くの方から引用していただいたり、海外の先生方からもお声がけいただいたりと、国際的にも、活動量

の考え方に、日本から布石を打ったという一種のやりがいも感じています。今後は、より実行性の高い活動量管理のストラテジーを確立することを目標としています。目標に向けて、学術活動を継続するために重要と感じることの一つは、タイムマネジメントです。例えば早朝、あるいは夜中の時間帯などに一定の時間を作り、何かしらの仕事に充てることを習慣化するようにしています。臨床業務・学術活動・プライベートを同列にとらえ、いかにバランスよく継続していくかを常に意識しています。

臨床業務の傍ら、学会発表や論文執筆などの学術活動に積極的に取り組んでいる4名の会員の方に、取り組みの内容や臨床業務の傍らでの取り組みのアドバイス、今後の目標などをレポートいただきました。

レポートにあたっての質問

- 学術活動の取り組み内容
- 学会発表や論文投稿に挑戦したきっかけ
- 理学療法士としての学術活動の次の目標
- 学術活動を実践するにあたってのモチベーションやアドバイス

身近な学術活動の場いろいろ



都道府県理学療法士会が主催する学術集会・大会 全国の8ブロックが主催する学術集会・大会

- 学術大会や学術誌などの情報は、都道府県理学療法士会の会報誌やホームページをご確認ください。
- 日本理学療法士協会ホームページでも、開催情報を一覧でお知らせしています。



理学療法士の
方向けサイト 講習・研修・学会
ブロック・都道府県理学療法士
会主催学術集会一覧
<https://www.japanpt.or.jp/pt/seminar/>



一般社団法人
日本理学療法学会連合
JSPT Japanese Society of Physical Therapy

日本理学療法学会連合

- 日本理学療法学会連合は、15の学会と5つの研究会で構成されています。
- 理学療法士の場合、日本理学療法士協会会員のみが上記の各学会・研究会に入会可能です。
- 会員区分は、以下の表をご参照ください。学会・研究会とも共通です。

専門会員 A (日本理学療法士協会会員)

- 1 大学等*1に勤務する個人
- 2 修士号や博士号を取得している個人
- 3 各学会・研究会の当該領域に関する専門理学療法士資格を有する個人
- 4 病院等*2に勤務し各学会・研究会の当該領域に関する研究者とみなされる個人*3

※専門会員は、当該領域の研究実績等について要件を満たしているかを確認します。

一般会員 (日本理学療法士協会会員)

- 1 専門理学療法士資格を有する個人
- 2 認定理学療法士資格を有する個人
- 3 公益社団法人日本理学療法士協会会員で本会・当該学会・研究会主催の学術集会或いは学術大会にて筆頭発表者としての実績が確認できる個人

※一般会員は、専門・認定理学療法士であれば領域を問いません。その他の場合には当該領域での研究発表実績を必要とします。

専門会員 B (理学療法士資格を有していない研究者)

- 1 大学等に勤務し、理学療法に関連した研究活動を行っている個人
- 2 病院等に勤務し、理学療法に関連した研究活動を行っている個人

*1 大学としては、一校に限定する。大学等には、理学療法研究に関わる施設（研究機関など）などを含む。
*2 病院等には、企業などの勤務先も含む。
*3 当該学会・研究会で発行する機関誌へ投稿した個人を、研究者とみなされる個人とする。

- 学術大会・学術集会の開催情報は、日本理学療法学会連合ホームページに掲載しています。
- 日本理学療法士協会ホームページの「講習会・研修会セミナー検索」からも検索が可能です。



<https://www.jspt.or.jp/conference/>

教えて!

日本理学療法学会連合

Q 会費がかかるの?

- A. 年会費は右表のとおりです。
各学会または各研究会への入会となり、それぞれ会費がかかります。

	専門会員 A	専門会員 B	一般会員	学生会員
法人学会	2,000 円	4,000 円	無料	無料
研究会	無料	2,000 円	無料	無料

Q 協会会員と学会会員では何が違うの?

- A. 会員としての権利が異なります。

法人学会・研究会に所属する会員の権利

- 一般会員は、機関誌(PDF版)提供のほか、当該領域の専門理学療法士や認定理学療法士資格を有する者は、学術大会の査読委員やセッション座長などの役割を担うことができます。
- 専門会員は、一般会員が有する権利に加え、評議員となり社員として社員総会への参加や、理事の選挙権および被選挙権を有します。学術大会においては、開催準備に関わることができるほか、査読委員やセッション座長などの役割を担うことができます。

日本理学療法士協会会員の権利

- 法人学会・研究会への所属有無にかかわらず、日本理学療法士協会会員であれば、協会会員の参加費で学術大会あるいは研修会等の学術活動に参加する権利を有します。また、法人学会・研究会が主催する学術大会における演題発表の機会も同等の権利を有します。



Q 学術活動って難しそう… 何からはじめればいい?

- A. 日本理学療法学会連合のホームページには、学術活動に役立つ情報がたくさん掲載されています。ぜひ、新人の方や学術活動はハードルが高いと感じている会員の方は、日本理学療法学会連合のホームページをご活用ください。わかりやすい解説もあり、きっと学術活動が身近に感じられ、取り組みのきっかけになります。

日本理学療法学会連合の
ホームページで
得られる情報 (一部)

- 学術誌「理学療法学」、英文誌「Physical Therapy Research」
- 解説付き英語論文サイト
- EBPT チュートリアル
- EBPT 用語集
- 新型コロナウイルス感染症理学療法関連情報
- 理学療法士のための COVID-19 感染予防対策動画 など



<https://www.jspt.or.jp/>

Top Message

会長 齊藤 秀之



理学療法士のサイエンス&アート

広辞苑では「学術」は「学問と芸術」と記されている。「学問」と「芸術」とは何であろうか。前者は、「科学（サイエンス）：一定の理論に基づいて体系化された知識と方法。」であり、後者は、「芸術（アート）：一定の材料・技術・身体などを駆使して、鑑賞的価値を創出する人間の活動およびその所産。」とある。それでは、理学療法士にとっての「学術」とは何であろうか。

まずは、理学療法士における「学問（科学）」について考えてみたい。臨床実践で理学療法士は、個々の患者・利用者の生活・人生の質や動きの可能性を見極める力量が必要とされる。これらの臨床実践で習得した知識と学問として座学で学習した知識の集合体が、理学療法士の「科学」と言えるのではないだろうか。

次に、理学療法士における「芸術（アート）」について考えてみたい。

私は、地域包括ケアシステムにおける理学療法士の活動の中に「芸術」が見いだせると考えている。答えのない地域包括ケアシステムという実践活動においては、対象者の意思や生活を尊重し、そのニーズに指向し、新たな可能性を追求することとなる。さらに、人の行動変容を促すことのみならず、地域を変える理学療法の実践力も必要とされるのではないだろうか。つまり、理学療法士のリハビリテーション医療にとどまらない活動やその所産が、対象者の鑑賞的価値を創出することとなり、これら一連の活動や所産が「芸術」と呼ぶに値するものとする。

ゆえに私は、会員の活動はすべて学術活動であると考えたい。理学療法学の理論を学ぶことは大切であるが、理学療法学にはない理論を学ぶことも大切である。すべての会員が、科学である理学療法学（サイエンス）と患者さんに対する人間としての姿勢（アート）を含めた理学療法を実践され、サイエンスとアートの両面を重視する学術活動に取り組まれることが本会として最も大切であるということを、結びの言葉とする。

理学療法士をとりまく



Vol. 19

ご存知ですか？ プログラムの医療機器該当性に関するガイドライン

近年、科学技術の発展により、新しいプログラムが人々の健康管理などに利用されるようになってきました。例えば、心電図や血圧を測定するウェアラブル製品や、ウェアラブル製品から得られる歩数や睡眠などの情報をもとに独自アルゴリズムによって評価するプログラムは一般的になりました。理学療法士にとっても、新しい技術としてのプログラムは身近です。例えば、リハビリテーションの支援を目的としたリハビリテーションの動画配信や疾患に関する一般の範囲での情報提供、実践内容の記録を行うプログラムなど、リハビリテーションに関するプログラムも日々開発されています。

これら新しい製品の中には、従来の医療機器と同様に、疾病の診断・治療を目的とするものがあることから、「医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律」（昭和35年法律第145号）によって規制されてい

ます。対象は、医療機器としての目的性があり、意図したとおりに機能しない場合に患者や使用者の生命や健康に影響を与えるおそれがあるプログラム（ソフトウェア機能）です（一般医療機器に相当するものを除く）。基本的考え方等は「プログラムの医療機器該当性に関するガイドライン」（令和3年3月31日付薬生機審発0331第1号・薬生監麻発0331第15号）で示されています。今後さらに理学療法士もプログラム開発や使用が身近になりますので、一度ご確認ください。詳しくは、厚生労働省のホームページをご覧ください。

厚生労働省 > 政策について > 分野別の政策一覧 > 健康・医療 > 医薬品・医療機器 > 医療機器プログラムについて



https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000179749_00004.html

仕事を守る、生活を守る 理学療法士と 政治活動

国政や地方議会で活躍する理学療法士や、連盟を含めいろいろな形で政治活動を行っている理学療法士に登場いただき、業界をとりまくさまざまな課題やその解決に向けた取り組みを紹介いたします。

本年1月18日から参議院議員としての活動をスタートしました。理学療法士をはじめとするリハビリテーション専門職の代表議員として、緊張感をもって国政活動に邁進しております。

1年生議員の仕事は、国会の仕組みを理解して、政策形成過程の議論や合意形成等の実務を実際に担当して学ぶことからスタートします。国家・国民に関わるすべての政策とその根拠となる法

制度を取り扱うため、実に幅広く学ぶことが求められます。現在、専門である厚生労働分野や文部科学分野、社会保障財源の確保に関わる経済財政分野のほか、所属する参議院委員会に関連する法務分野を中心として、党政務調査会の各部会、議員連盟、議員勉強会に出席して質問や要望を行っています。

政策形成の議論を行う過程で最も重要なことは、国民がその生活場面でどのような問題を実際に抱えているのか、政策を実行した場合にその課題がいかに解決され、国民生活がどのように豊かになる（なった）のかです。さらには、実際に国民の声があれば望ましいことです。このことは患者や対象者に限らず、理学療法士自身についても同じであります。

国会議員は国民や支援者の声を代弁する立場でありますので、私が国政に

て発言することは国民、理学療法等リハビリテーションの対象者や専門職の声であるべきです。今後、専門領域のみならず、子育てや学校教育など皆さまが日常生活でどうにかしてほしいと感じておられることを幅広くお寄せいただける機会を設けたいと思いますので、よろしく願います。



当選証書授与の様子



田中 昌史

1965年北海道札幌市生まれ。1987年理学療法士免許取得。2023年1月、参議院議員として繰り上げ当選。現・日本理学療法士協会理事。

田中まさし公式サイト (<https://tanaka-masashi.com/>)



近藤 正太(こんどう しょうた)

三津整形外科

Shota Kondo

1979年高知リハビリテーション学院卒業。リハビリテーション専門病院、総合病院、整形外科病院を経て、三津整形外科に勤務。現在に至る。愛媛県理学療法士会理事・監事、日本運動器徒手理学療法学会監事、日本筋骨格系徒手理学療法研究会評議員などを務める。2020年日本理学療法士協会協会賞、2021年愛媛県理学療法士会長賞受賞。整形徒手理学療法士(OMPT)、専門理学療法士(運動器)、GPT(Golf Physio Therapist) Official Instructor。

本コーナー「生涯現役」では、生涯現役で活躍する先達から会員の皆さまへメッセージを募集しております。
お問い合わせ先: JPTA NEWS 担当 news@japanpt.or.jp

生涯現役

徒手理学療法に感謝

この投稿のお話をもらった時、一度はお断りした。それは、私自身セカンドキャリアの立場がなく、約30年近く務めた職場に今も勤務している。しかもいまだに未熟者であることがその理由であった。

県士会広報の方から重ねてのご指示をいただき、私のような平凡な人間でも大丈夫ということだったのでお引き受けすることにした。

理学療法士として仕事をはじめて約43年、そのすべてを臨床の場に置き、医療機関で勤務する中で、初めの15年は主体を中枢神経系、その後の年月を運動器系と、多くの患者さん、ご家族と臨床を通して接する機会を持たせていただいた。

臨床経験が13年を過ぎた頃、徒手理学療法の手技であるKaltenborn-Evjenth Conceptを学ぶチャンスに恵まれ、総合病院から整形外科に身を置くことに。それから今日に至るまで徒手理学療法を学び続け、患者さんの変化に一喜一憂する中で、まだ力の足りなさを感じ、試行錯誤を繰り返しながら、患者さんと向き合っている

現状からいまだ抜け出せないでいる。

理学療法に対する探究心はどちらかと言えば旺盛な方であり、それに費やす時間、労力は惜しまなかったように思う。しかし、何よりも学び続けることができる技術に出会ったことに幸せを感じている。これからも「素直な心」を持ちながら「突破離」のプロセスを大事にし、そして、「感覚と直感」を大切にきた徒手理学療法、まだまだその技術にこだわっていききたい。

最近、唯一身体を動かす趣味のゴルフに徒手理学療法以上の経験を積んでいるが、ここにきてなぜかスイッチが入り、さらなる高みを目指し技術の追求に励んでいる。どちらもゴールは果てしなく遠い。

近年、理学療法はさまざまな領域にどんどん広がりを見せている。近い将来、運動器系疾患の予防に貢献できる理学療法士が、一般企業に当たり前のように勤務し活躍する時代が来るであろう。

最後に、理学療法士という職業、その奥深さに感謝する。

コツコツ学ぼう!

登録理学療法士更新ポイント問題解答

登録理学療法士の更新ポイントの取得要件の一つに、JPTA NEWSの問題解答があります。全問正解で、1ポイント取得できます！登録理学療法士の方は、更新資料をご確認のうえ、右記のQRコードを会員専用アプリで読み込んで、ぜひチャレンジしてみてください！



カリキュラムコード 区分13 理学療法概論 回答期限は6月19日まで

マイページ内のeラーニング画面からご回答いただけます。セミナー番号「109303」でお申し込みください。手順については、下記ページ「問題解答の概要」資料をご確認ください。
※解答後、翌日中にマイページ内の履修状況へ反映されます。

登録理学療法士制度の概要はこちら ▶ <https://www.japanpt.or.jp/pt/lifelonglearning/new/registered/>
コツコツ学ぼう！登録理学療法士更新ポイントに関するお問い合わせは、**本会ホームページ FAQ**からお願いいたします。



INFORMATION

異動・休会・復会・退会等の手続きについて

会員数 **136,357**名 2023年3月31日現在
*休会者含む

ご登録内容に変更が生じた場合は、日本理学療法士協会(以下、本会)ホームページ内の【マイページ】へログインし、Web申請にて各種手続きをお願いいたします。トラブル防止のため、電話・メール・FAXによる各種申請は受け付けておりません。

〈参考URL〉 <https://www.japanpt.or.jp/pt/announcement/member>

* Web環境がない場合は、本会事務局(TEL: 03-6804-1421)へお問い合わせください。



異動

所属施設の変更・自宅住所の変更等により会員登録に変更が生じた場合は、マイページの【登録内容の変更・確認】→【本人情報の確認・更新】より、次のとおりお手続きください。

所属施設の変更: 【主たる所属先変更】より、異動申請手続きを行ってください。

自宅住所の変更: 所属施設の登録がある方は【自宅情報変更】より、お手続きください。お手続き後、即時変更可能です。
所属施設の登録がない方は【自宅情報変更・所属先追加】より、異動申請手続きを行ってください。

(注)・【就労(学)状況】の入力欄は、非常勤勤務の方も、ご所属施設がある場合には【働いている】をご選択ください。
・海外会員に登録される場合は、会費の支払い方法について確認させていただきますので事前に本会事務局へご連絡ください。
なお、帰国後は必ず都道府県理学療法士会に所属しなければなりません。
・施設移転等による施設情報の変更は、施設会員代表者、または施設会員代表者代理に割り当てられた方のみ変更が可能です。
施設会員代表者様は【マイページ】へログインしていただき、【登録内容の変更・確認】→【施設情報管理】よりお手続きください。

休会・退会

マイページの【登録内容の変更・確認】→【本人情報の確認・更新】→【休会申請する】または【退会申請する】よりお手続きください。申請受理後、下記の権利が停止となります。

休会中ならびに退会後は下記の権利が停止となります。

- 各種研修会・学会等への会員価格での参加(非会員価格での参加となり、会員対象の研修会への参加はできません)
- 各種学会への無料での演題登録
- 理学療法士賠償責任保険への加入(全員加入・任意加入)
- 会報誌「JPTA NEWS」の発送
- 役員候補者選挙および代議員選挙の選挙権、被選挙権
- 福利厚生サービス「クラブオフ」の利用 など

(注)・休会期間は4月1日から翌年3月31日までです。年度途中の休会も満了日は3月31日となります。
ただし、1月1日~3月31日の間に申請が行われた場合は、ご申請日または4月1日から翌年3月31日を休会満了日とします。
・休会期間満了時までに必ず復会/休会継続/退会いずれかの手続きをお願いします。休会継続をご希望の場合は、休会継続申請受付期間(1月1日~3月31日)にご申請ください。
・休会期間満了時までに手続きがない場合は、規定により退会となりますのでご注意ください。
退会後、生涯学習履修履歴は無効となり、取得した資格も失効します。再入会時には再履修・再取得が必要です。
・休会中に所属施設が変更、もしくは自宅住所の変更となった場合は、上記、【異動】の手順に沿ってお手続きください。
・年度途中の申請の場合、納入済の当年度年会費はご返金いたしかねます。

(注)・退会日は退会申請を行った日となります。退会後、生涯学習履修履歴は無効となり、取得した資格も失効します。再入会時には再履修・再取得が必要です。
・納入済の当年度年会費はご返金いたしかねます。
・退会される場合は、会員証を速やかに破棄してください。

復会

休会中の会員が復会を希望する場合は、マイページの【登録内容の変更・確認】→【本人情報の確認・更新】→【復会申請する】よりお手続きください。

会費割引(育児休業・シニア・海外)

マイページの【お支払い管理】→【会費割引申請】よりお手続きください。2024年度年会費が割引適用となります。

マイページのログインID・パスワードの再発行

マイページへログインできない場合は、マイページログイン画面下の「ログインできない方はこちら」より、ID・パスワードの再発行申請をお願いします。
〈参考URL〉 <https://www.japanpt.or.jp/inquiry/faq/mypage/system20002.html>

(注)お電話によるID・PWのご照会はありません。



マイページ専用アプリ導入のお知らせ

会員マイページ専用アプリを導入いたしました。会員専用アプリでは、マイページへのオートログインやQRコード読取機能による研修会参加受付が可能になるほか、協会・士会からのお知らせがプッシュ通知で受信できます。ぜひ、アプリをダウンロードの上、ご活用ください。

※会員マイページ専用アプリに関する詳細は下記よりご確認ください。

参考URL <https://www.japanpt.or.jp/pt/announcement/newsystem/>



クラブオフについて

♪選んだプレゼントが全部もらえる♪
「お祝い制度」特集♪

(例) マタニティお祝い制度



コンビ公式
オンラインクーポン
1,500円分、
おむつポーチなど

◎その他サービスの詳細はWebで検索

理学療法士協会 クラブオフ 検索



HOT TOPICS

役員候補者選挙、当選人発表！

2023・2024年度の本会役員候補者の当選結果をマイページ「会員限定コンテンツ」に公開しています。役員候補者は、6月11日開催の第52回定時総会にて決議されます。会長候補者は同総会の決議にて候補者として正式に選出された後、同日開催される理事会にて決議される予定です。

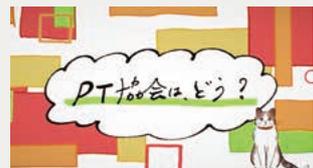
[マイページ](#) > [会員限定コンテンツ](#) > [協会運営・資料一覧](#) > [選挙](#) > [役員候補者選挙](#)



新入職員の皆さまへのお声かけ ご協力をお願いします！

今春、貴施設に新たに理学療法士になった方は入職されましたか？

日本理学療法士協会では、本会を紹介する動画や入会に関する情報をホームページに掲載しています。ぜひ、本会を紹介するツールとしてご活用ください。



養成校を卒業された皆様へ



<https://www.japanpt.or.jp/pt/announcement/privilege/graduater.html>

新卒者向け動画「90秒でわかる日本理学療法士協会(PT協会)」



https://www.youtube.com/watch?v=U_yyKBPkuwU

World Physiotherapy 学会 2023年ドバイ、2025年東京開催のご案内

2023年6月2～4日、World Physiotherapy 学会がアラブ首長国連邦のドバイにおいて、対面で開催されます。4年ぶりの対面で開催される学会です。まだ参加登録されていない方は、早期登録割引もごございますので、お早めにお申し込みください。そして2025年、同学会が東京で開催されることになりました。1999年の横浜での開催以来、約四半世紀ぶりの日本開催です。2023年、2025年と両方の学会場にぜひご来場ください。

<https://www.japanpt.or.jp/pt/international/organization/>



『日本理学療法士協会雑誌 Up to Date』 創刊号のお知らせ

2023年2月に新たな機関誌が発刊されました。ご覧いただけたでしょうか？ 明日から役立つ情報が満載です！

大腿骨近位部骨折に関する特集記事、斉藤会長・本会雑誌編集部会長である神奈川県立保健福祉大学の内田賢一先生の動画メッセージに加え、連載記事にて動画を掲載している、島嶼地での美しい風景は必見です。

本会のマイページから閲覧いただけます。

<https://www.japanpt.or.jp/pt/lifelonglearning/uptodate/>



「理学療法が支える未来2030」を 発行しました！

本リーフレットは、国民が住み慣れた地域で暮らし続けることを支援するために、2030年における理学療法のあり方、国民保健に資する理学療法のあり方についての本会での検討を踏まえ、「2030年の国民の生きがいを支える理学療法士のビジョン」としてまとめられました。

理学療法に関する啓発事業等で国民の皆さまへ配布していただくなど、広くご活用ください。

https://www.japanpt.or.jp/activity/books/webbooklet_01/



マイページ(会員限定コンテンツ)へのアクセスはこちらから。



公益社団法人
日本理学療法士協会
JPTA Japanese Physical Therapy Association

公益社団法人 日本理学療法士協会会報誌 号数：No.342
発行日：2023年4月20日

発行人：公益社団法人 日本理学療法士協会
〒106-0032 東京都港区六本木七丁目11番10号
TEL：03-5843-1747 FAX：03-5843-1748

HPへアクセス

代表：斉藤秀之
編集：日本理学療法士協会 事務局
本会HP：<https://www.japanpt.or.jp>

